

■1,2年科目

授業科目	ヒロシマ・ナガサキ学			科目コード	C0180
担当教員	川口重雄	開講期間	秋学期	配当年次	1,2年

授業題目

ヒロシマ・ナガサキ学

授業概要・目的／到達目標

【授業概要・目的】
2017年7月7日の国際連合総会で採択された核兵器禁止条約は、2021年1月22日に発効しました(2023年1月10日現在、署名国93、批准国69)。一昨年2月24日に始まったロシア軍によるウクライナ侵攻をうけて人類の滅亡までの残り時間を象徴的に示す「終末時計」(2023年1月24日発表)は、過去最短の「90秒」に更新されました。核兵器廃絶と核兵器使用をめぐる世界の動きは、地球規模の課題です。新型コロナウイルスなどの感染症の拡大や気候変動、貧困や格差の拡大などとともに、人類が解決しなければならないテーマの一つです。
日本は戦争による被ばく体験をもつ国です。その国にいる私たちが人類の課題としての核の問題を学ぶことは大切なことです。“HIBAKUSYA”(ヒバクシャ)という言葉は核兵器禁止条約の条文中に記されています。
原爆投下への道--2つの世界大戦と平和への希求。核兵器がどのように造られたのか。広島・長崎への原爆投下。20万人余の命を奪い、生き残った被爆者を苦しめてきた核爆弾。核が人間に何をもたらしたのかを学び、考察します。被爆の苦しみを背負いながら、核に立ち向かってきた被爆者の生き方、証言を教室で聴きます。そして第2次世界大戦後の核兵器開発の歴史、それによって世界に広がった被ばくの被害を学び、核なき世界の可能性を考えます。
授業では、映像資料も視聴します。また、2つのフィールドワークを行います。原爆の図丸木美術館（埼玉・東松山市） 第五福竜丸展示館（東京・江東区）
詳細は「毎回の授業」欄下部に記載。
【到達目標】
◇広島・長崎の原爆や放射線被ばくについて理解し説明できる。
◇核なき世界の実現に関して自らの考えを述べることができる。
◇核問題を起点に国際社会の抱える諸問題について関心をもち、主体的にかかわることができる。

身につく力

①知識力,②理解力,⑤情報分析力,⑥情報統合力,⑦問題発見力,⑨主体的実行力,⑩論理的思考,⑫共感力,⑬伝える力

授業形態

講義

授業で使用する言語

日本語

アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッション、ディベート等)の実施
--

あり

毎回の授業

【15回分の授業計画】
《講義日程》 2024年9月24日（火）～1月14日（火） 毎週火曜日 午前11：00～12：30

- 9月24日：授業内容の説明、講師の自己紹介 まず広島・長崎の被害状況を知る
- 10月1日：第1次世界大戦と平和への希求
- 10月8日：原爆開発と原爆投下への道
- 10月15日：広島・長崎の破壊
- 10月22日：被爆者の戦後のあゆみ
- 10月29日：被爆者の証言 山田玲子さん（1回目のレポート提出）
- 11月5日：核兵器の禁止と核抑止論
- 11月12日：授業なし（休講）
- 11月16日：原爆の図丸木美術館見学会（2回目のレポート提出）
- 11月19日：授業なし（休講）
- 11月26日：第五福竜丸被災とビキニ事件
- 12月1日：第五福竜丸展示館見学会（3回目のレポート提出）
- 12月3日：授業なし
- 12月10日：授業なし
- 12月17日：広島・長崎後—戦後の核開発・マーシャル
- 1月7日：世界の核被害をたどる（「世界のヒバクシャ」）
- 1月14日：まとめ・意見発表

以上、2つの見学会と講義日程・内容（休講4回）です。

【事前・事後の学習内容】

テキスト、配布されたプリントに目を通す。授業で紹介された本や資料で面白そうだなと思うものには、ぜひ取り組みましょう。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎時間、質問と感想をリアクションペーパーに書いてもらいます
質問には翌週の授業内で答え、さらに深めます。

フィールドワーク詳細：原爆の図丸木美術館--丸木位里・俊夫妻が描いた「原爆の図」の連作をはじめ20世紀の歴史をモチーフにした夫妻の絵を鑑賞します。（埼玉・東松山市）。第五福竜丸展示館--今年被ばく70年をむかえる米軍ビキニ水爆実験の被災船第五福竜丸を見学します（東京・江東区）。

成績評価方法

レポート提出(2回) 80%、毎回の授業のリアクションペーパー20%。

テキスト

『フィールドワーク第五福竜丸展示館―学び・調べ・考えよう』他1冊。

参考文献

『1945年8月6日』伊東壮著(岩波書店)、『ナガサキー1945年8月9日』(岩波書店)、『ビキニ事件の表と裏』大石又七著(かもがわ出版) など。

授業科目における実務経験

2024年に被ばく70年を迎える第五福竜丸に関する執筆と、見学会のコーディネイト（被爆地・長崎のフィールドワーク、事前・事後学習などの指導、被ばく者の方々との対話、東京都内・神奈川県でのフィールドワークなど）を30年以上にわたって行ってきました。教室を出て、「現場」へ行ってその場所に身を置き、考える機会を設けます。

オフィスアワー・連絡先／履修する上での必要な要件

連絡先：s-katahama@keisen.ac.jp

1. 原爆の図丸木美術館見学会：2024年11月16日（土）午前10時～12時30分ごろ（現地集合・解散） 授業2回分（11月12日・19日は休講）

【内容】広島県出身の水墨画家 丸木位里（1906～1995）は、油彩画家 妻丸木俊（1912～2000）とともに、被爆直後の広島を訪ね（入市被ばく）、爆心地から北へ2.5キロの両親の家を修復し、

1か月ほど滞在しました。そこで見たこと、聞いたことをもとに、1950年に「8月6日」を共同制作しました（後の『原爆の図』第1部「幽霊」）。

夫妻は30年以上の歳月をかけて全15部の『原爆の図』を完成させました。

1967年5月5日、丸木夫妻が誰でもいつでもここにさえ来れば『原爆の図』を見ることが出来るように、という思いを込めて開館したのが、原爆の図丸木美術館です（第15部「長崎」は長崎原爆資料館蔵）。

他に「南京大虐殺の図」「アウシュビッツの図」「第五福竜丸の図」「水俣の図」なども展示されています。

それらの絵画を見学し、同館学芸員 岡村幸宣さんの講話を聴きます。

2. 都立第五福竜丸展示館見学会：2024年12月1日（日）午前9時30分～12時30分ごろ（現地集合・解散） 授業2回分（12月3日・10日は休講）

【内容】今から70年前の1954年6月1日、静岡県焼津市焼津港所属のマグロ漁船第五福竜丸は、中部太平洋赤道海域のマーシャル諸島ビキニ環礁から東へ約160キロの海上で、

アメリカ軍が行った水素爆弾ブラボーの爆破実験により被ばくしました。アメリカ軍によって1945年8月6日に広島に、8月9日に長崎に原子爆弾を投下された唯一の戦争被爆国の日本の、

第3の被ばくでした。

その第五福竜丸が今も展示されている都立第五福竜丸展示館などを見学します。「死の灰」や「世界のヒバクシャ」などさまざまな展示物を見学し、第五福竜丸が獲ってきたマグロが

「原爆マグロ」として埋められた築地市場跡なども見学します。